



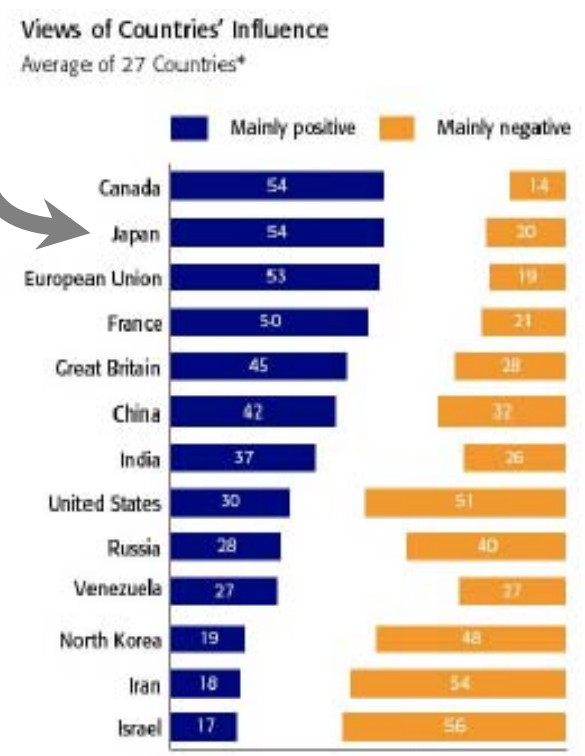
海外交流審議会答申 参考資料

1. 英国BBCワールド・サービスによる国際世論調査
2. 海外における日本語学習者数
3. 近年の日本語学習者数の増加(地域別)
4. 国際放送の発信状況
5. 米国における対日世論調査(1)
6. 米国における対日世論調査(2)

英国BBCワールド・サービスによる国際世論調査(概要)

●各国・地域に対する評価

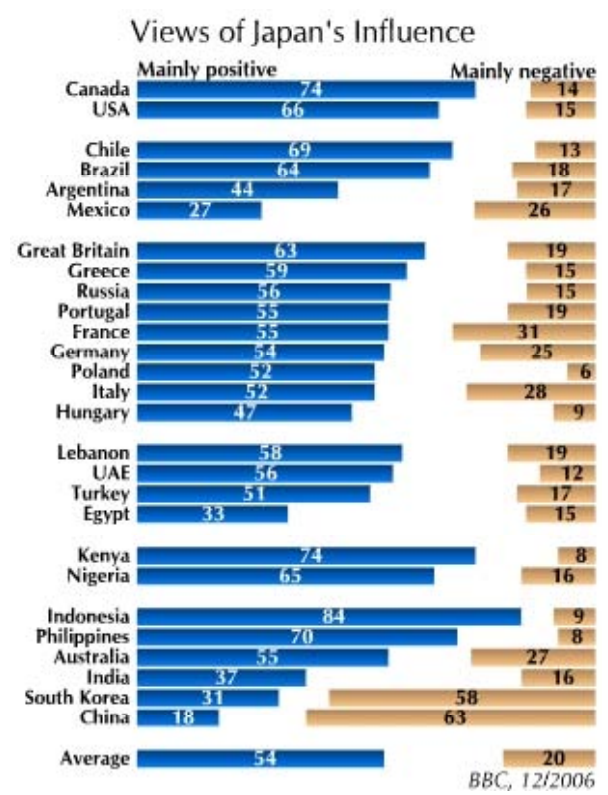
→日本の世界に対する影響が「肯定的」とする意見は54%で、カナダと同率で最も高かった。



*Averages not including views of subject country

●日本に対する評価

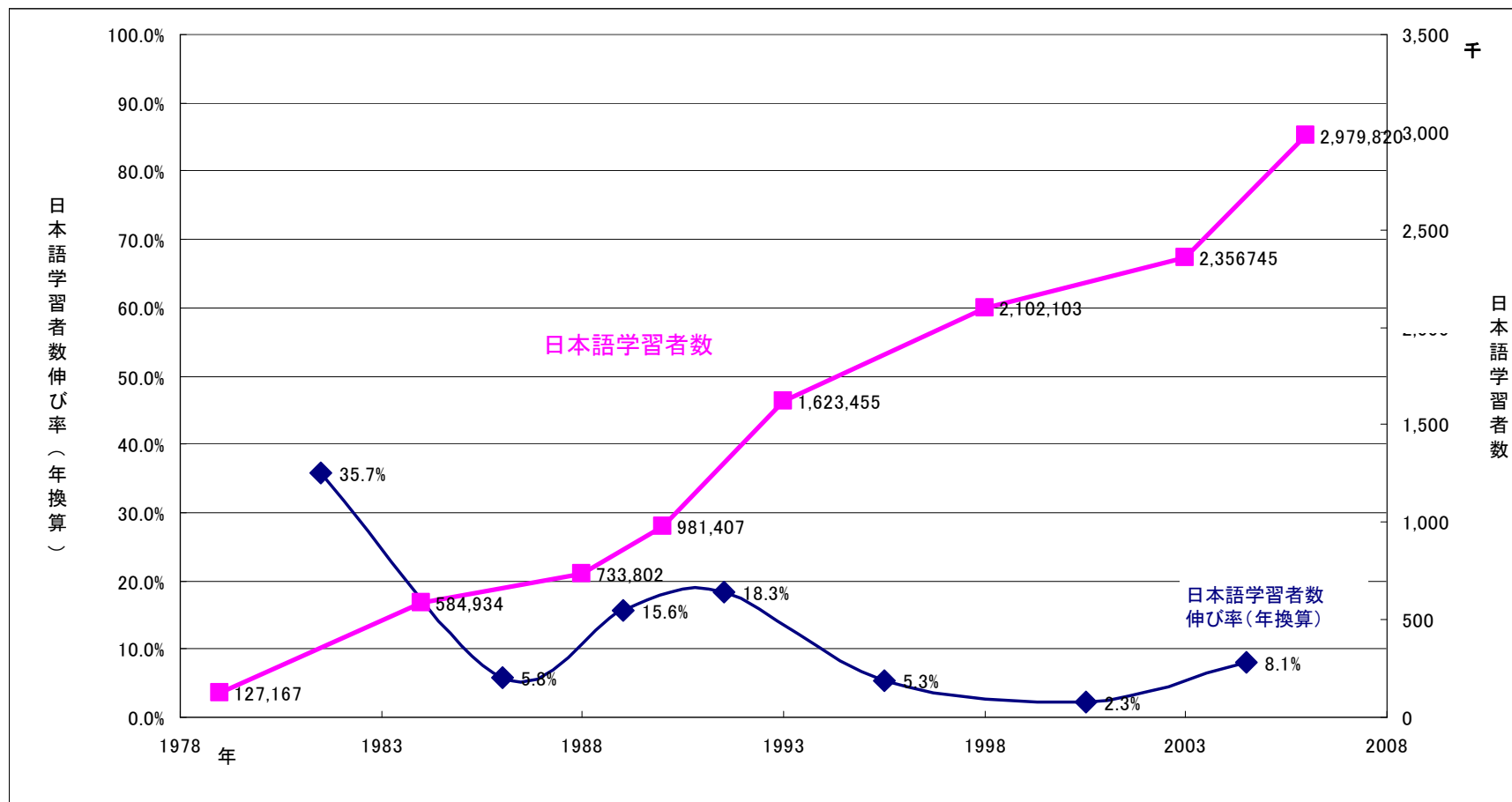
→27カ国中25カ国で「肯定的」が「否定的」を上回る。特に、東南アジア（インドネシア、フィリピン）、豪、米、加で高い評価。



- 調査機関: BBCワールド・サービス、GlobeScan Incorporated社(本社トロント)、米メリーランド大学の研究チームThe Programme on International Policy Attitudes
 - 調査概要: 27ヶ国の人々が、世界の13の国・地域が世界に与える影響をどう見ているかにつき調査(2004年から毎年実施)。日本は前回から新たに調査対象として加えられた。
 - 調査手法
 - 調査時期: 2006年11月から2007年1月
 - 被調査者: 27ヶ国(注1)の28,389人
 - 調査内容: 日本を含む13ヶ国・地域(注2)について、世界に対して与える影響が肯定的か、否定的かを質問。
- (注1) アルゼンチン、豪州、ブラジル、カナダ、チリ、中国、エジプト、フランス、ドイツ、英国、ギリシャ、ハンガリー、インド、インドネシア、イタリア、ケニア、レバノン、メキシコ、ナイジェリア、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ロシア、韓国、トルコ、ア首連、米国
- (注2) 英国、カナダ、中国、フランス、インド、イラン、イスラエル、日本、北朝鮮、ロシア、米国、ベネズエラ、EU

海外における日本語学習者数

(国際交流基金調査)



近年の日本語学習者数の増加(地域別)

(国際交流基金調査)

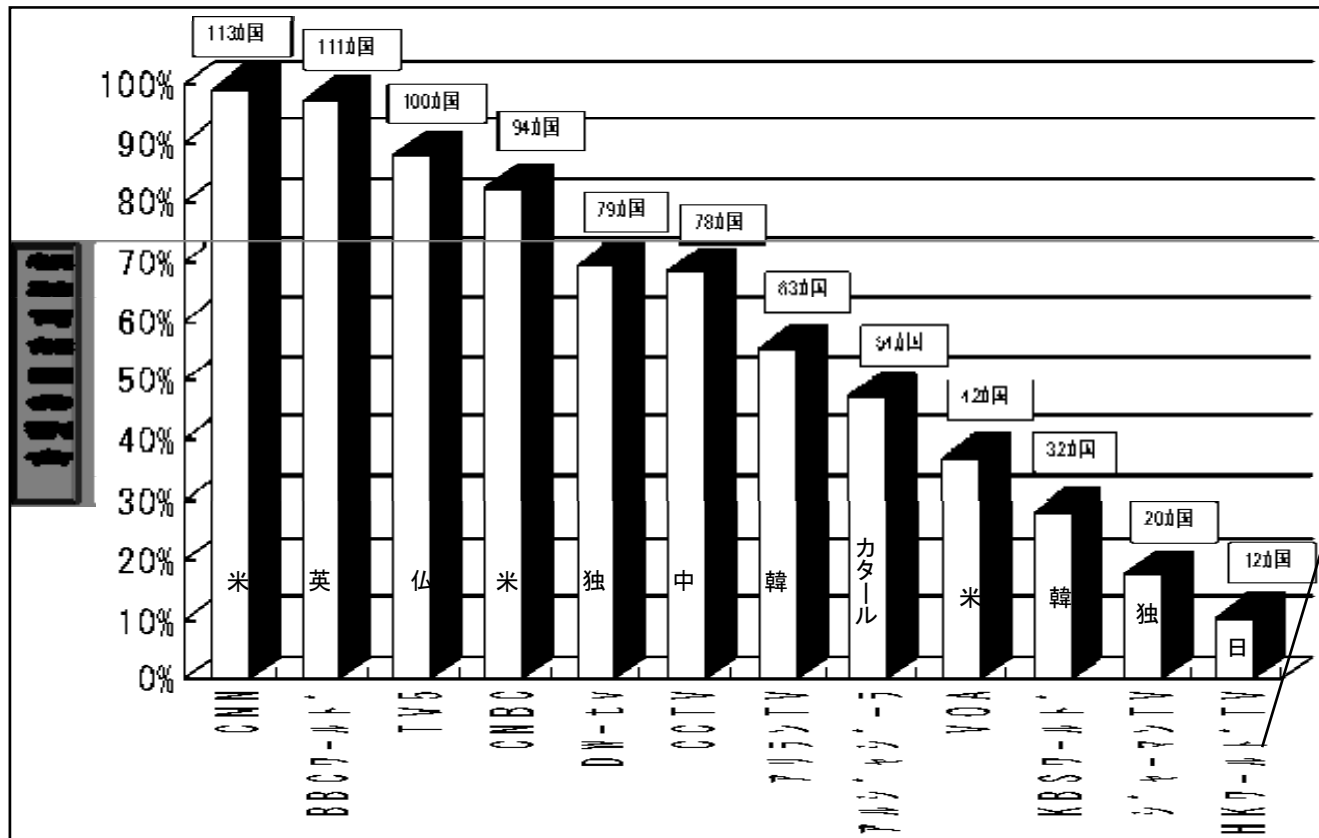
調査年	2003		2006		増加率(3年間)
東アジア	1,438,425		1,833,515		27.5%
東南アジア	206,014		440,172		113.7%
南アジア	12,965		24,244		87.0%
大洋州	415,919		400,415		-3.7%
北米	160,657		141,803		-11.7%
うち米国		140,200		117,969	-15.9%
中南米	37,092		44,231		19.2%
西欧	59,586		61,334		2.9%
東欧	21,416		25,391		18.6%
中東・アフリカ	4,671		8,715		86.6%
全世界	2,356,745		2,979,820		26.4%

国際放送の発信状況

通信・放送の在り方に関する政府与党合意(平成18年6月20日)

新たに外国人向けの映像による国際放送を早期に開始する。その際、新たに子会社を設立し、民間の出資等を積極的に受け入れるとともに、必要な国費を投入する。

主要国際放送の各国における受信状況(外務省調べ)



・在外公館を通じた114カ国の調査結果。100%=114カ国。

・NHKワールドTVについては、上記114カ国のうち、正規契約により現地放送事業者による再送信を実施している国の数を示す。(大型パラボラがあれば受信可能となる国を含まない。また、在留邦向けのサービスであるテレビジャパンの一部として視聴している場合も含まない。)

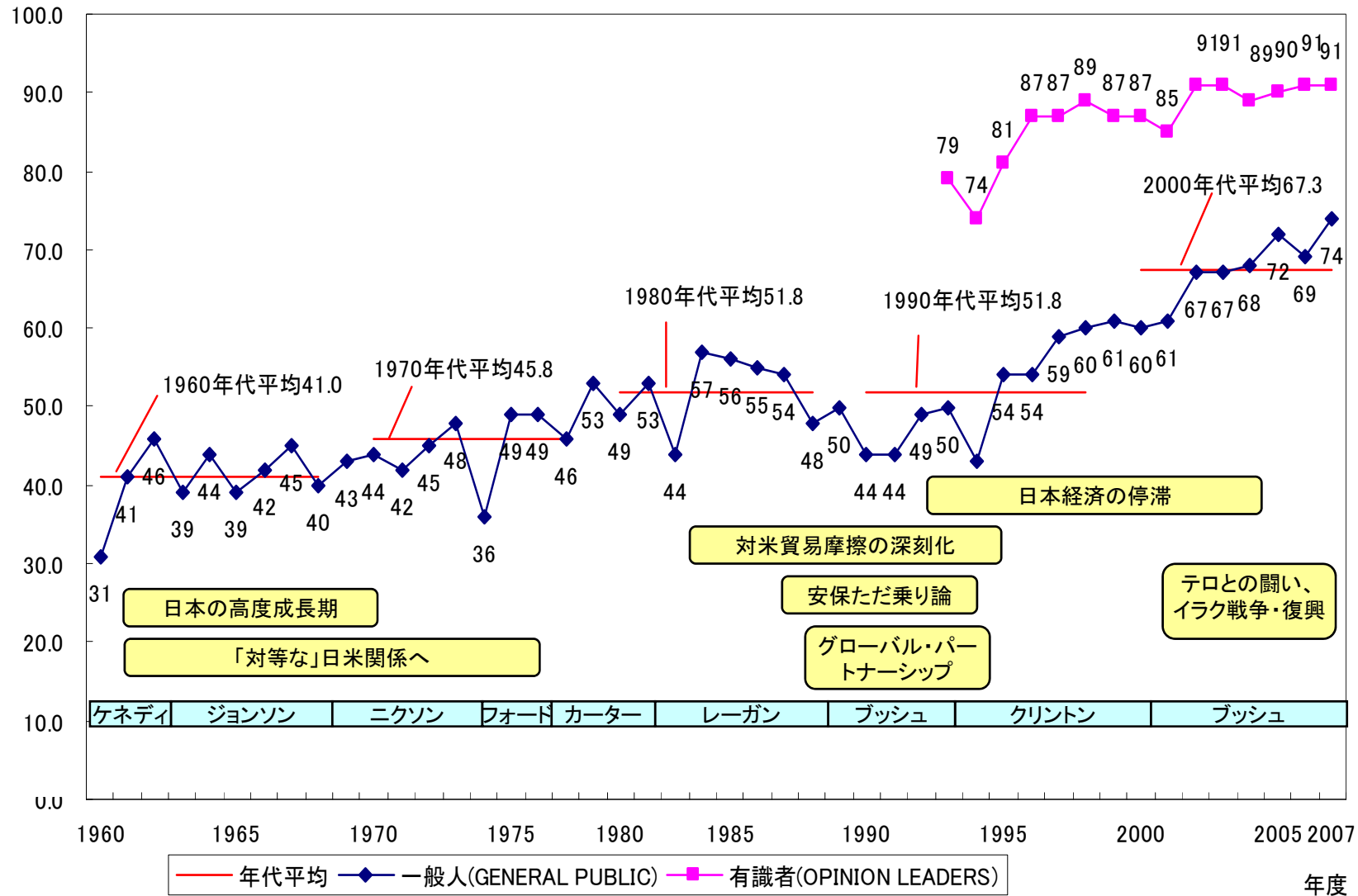
NHKによるテレビ国際放送の2スキーム

NHKワールドTV: 現時点での英語化率約80%、平成20年度末までに英語化率100%とし、外国人向けに特化予定。

NHKワールド・プレミアム: 在留邦人向けの日本語放送。100の国・地域で1500万余世帯の受信契約者がいる。

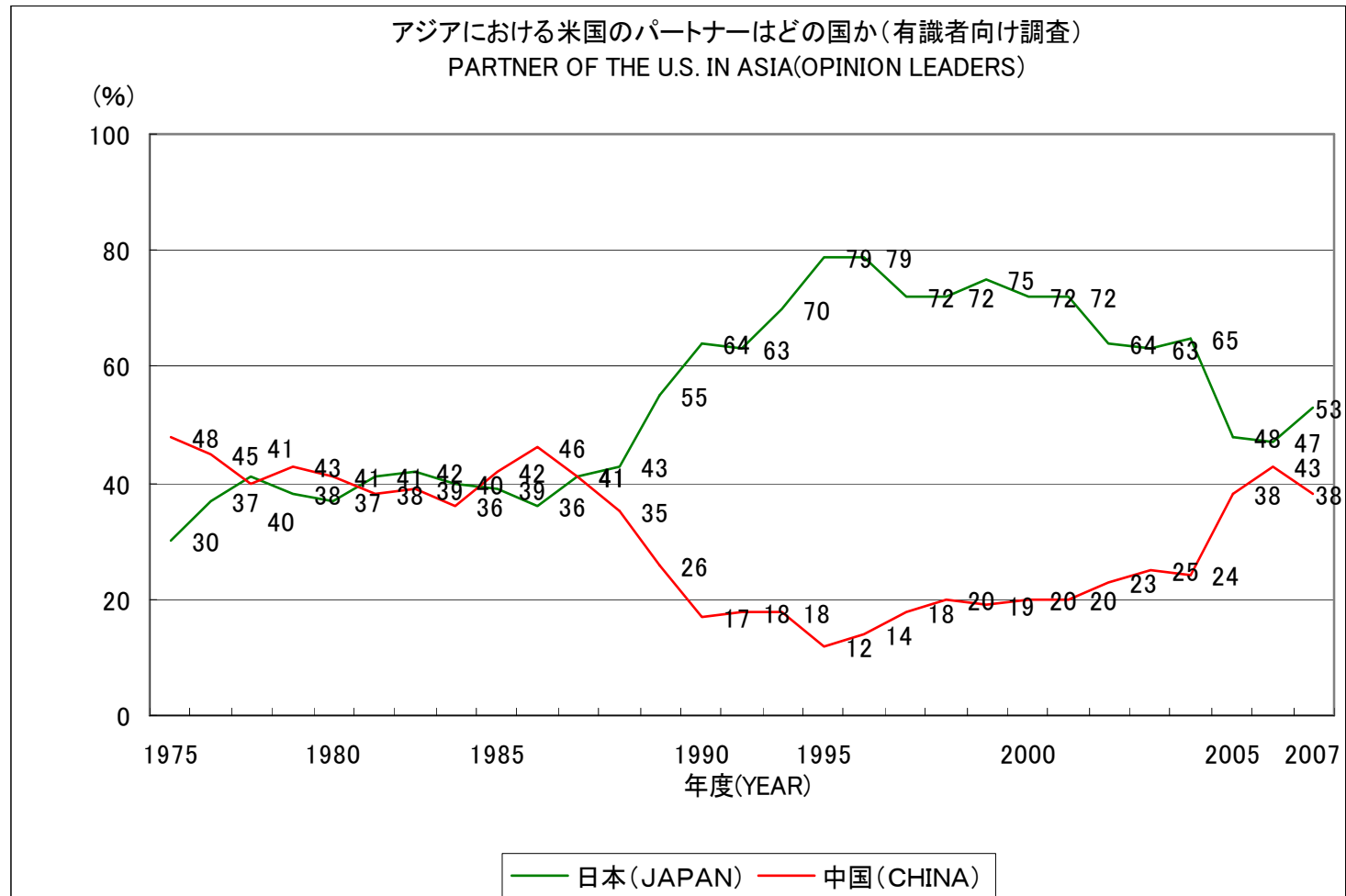
米国における対日世論調査(1)

1-1 日本は米国の信頼できる友邦か否か
 (「信頼できる」と答えた割合)
 JAPAN AS A "DEPENDABLE" ALLY / FRIEND



(米ギャロップ社(外務省委託))

米国における対日世論調査(2)



(米ギャロップ社(外務省委託))